

第1回 佐伯市立幼稚園及び小・中学校教育問題検討協議会 議事要旨

- 1 開会
- 2 会長・副会長の選定
委員の互選により会長に宮崎好治委員、副会長に冨尾久信委員が選定され、宮崎会長が挨拶を述べた。
- 3 諮問
宗岡教育長から宮崎会長に諮問書が手渡された。
- 4 説明・報告
 - (1) 佐伯市立幼稚園及び小・中学校教育問題検討協議会について
事務局が配布資料を基に説明を行い、質疑応答を行った。
 - (2) 佐伯市の現状と課題について
 - ア 佐伯市の人口の推移
 - イ 佐伯市立小・中学校の現状
 - ウ 児童・生徒数の推移と推計
 - エ 佐伯市立小・中学校の統廃合
 - オ 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（文部科学省）
 - カ 佐伯市立小・中学校の今後の在り方（適正規模・適正配置）に関する基本方針
 - キ 学校施設の状況
事務局が配布資料を基に説明を行い、質疑応答を行った。

【質問・意見】

委員	<p>この先5年10年、今の状態では厳しいということはわかっていたが、数値であらわすと非常に厳しい状況である。文部科学省の適正配置に関する手引の方にもあるように、子どもたちの学校教育の中での適正人数はあると思うが、特に幼稚園、小学校のときの地域での体験、人との関わりは大人になっても、かなり時間が経っても残っているものなんだと近頃感じている。学校はなくなったけれど、地域の方が子どもたちとどういうふうに関わっているのか。何かいい事例があったら今後の参考になると思う。近年の青山小と下堅田小の統廃合で学校が摺んでいることがあったら、教えてもらいたい。</p> <p>学校がなくなったら地域が廃れるという一般的な地域住民の感覚がある。青山と下堅田ではそういうものが解消されて進んでいるのか。</p>
委員	下堅田小では、下堅田の地区の方にはいろいろ協力していた

	<p>だいたりとかはあるが、青山の方とはそういうコミュニティが繋がっていないという実感でいる。</p>
<p>教育部長</p>	<p>青山小学校の統合については、保護者の方から統合して欲しいという要望があったので、教育委員会が定めた基本方針ののっとって統合した形になる。青山地区については、コミュニティセンター化されて、地区全体が、学校はなくなるけれども子どもたちはそこに住んでいるのだから、コミュニティセンターを中心に放課後もしっかり子どもたちの活動を見ていこうと、地域の大人が関わっていこうと、そういう思いが非常に強い。日中子どもはいないけども、帰ってきたら青山に住んでいるのだから、そこでしっかりと子どもたちの見取りをしようということで、非常にいい事例かなというふうに私たちは見ている。</p>
<p>委員</p>	<p>青山のように、学校がなくなっても地域で子どもたちを支えるというそういう意識のもとに統合されると、子どもたちは土日や学校から帰ってからの生活では地域活動があるし、学校に行っている間は集団で学ぶ、切磋琢磨するような、子どもたちが両方向、地域体験もできる、そして、集団の教育も受けられるというのがいいのかなあというふうに思う。以前、中学校が統合されてすぐのときに、それぞれの地域に地域教育で生徒を送り込んでくれた。その時は、中学生が来てくれたと言って私の母もすごく喜んだ。それが統合が進んでいって、年数も経つと、中学生の姿がなく、地域に根づいていない。そこが持続可能で、両方で子どもたちの教育ができるといいなというふうには思う。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>私は、平成 29 年の蒲江翔南学園、小学校が統合したときの立ち上げのときに 3 年間在籍をさせていただいた。とにかく合併は非常に地域の方の思いが強い。地元から子どもたちがいなくなってしまうというその寂しさは本当に大きかったというところで、統合した当初、各地区に教員も回りながら、地区の方々と懇談をした。どういう形で子どもたちと地域をつなぎながらやっていこうかというところを各地区で話をして、そして、里帰り授業という形で、それぞれの地区の子どもたちが自分の里、そこに戻って地域の方々と一緒に活動をするという取組をした。コロナの時期に中断はあったが、いまだに地域の方とその地区に住んでいる子どもたちとの交流授業が続いている。当時は、それぞれの地区で伝統的な行事を行ったりしていたが、今</p>

	<p>年聞いてみると、どの地区も防災をテーマに地域の子もたちと地域の方々が一緒に活動をしていると聞いている。</p> <p>合併は、非常に地域の方にとっても大きなこと。地元、出身地域を大切にすることをしっかり育んでいくことは学校も大切だと思っているので、蒲江地域についてはそういう取組を進めているというところである。</p>
委員	<p>下堅田地区のことで、知り合いから最近聞いた話だが、下堅田地区はコミュニティが立ち上がっているということで、その地域コミュニティが学校で凧あげをしようと計画した。中心となってやられた方が子どもたちが半分くらい来ればいいかなということだったみたいだが、百何人かの方が来られたということで、凧あげ大会がかなり大盛況だったという話をお伺いした。</p> <p>それから9月20日の下堅田コミュニティまつり、これもコミュニティの方が率先してされている。ここでも子どものダンスとか、地区の子ども、それから地区外も誘っているという話をお伺いしている。下堅田は、外部から見てもかなりコミュニティが立ち上がって活発に子どもさんを巻き込んで、かなり進んでいるという話をお伺いしている。</p>
委員	<p>下堅田のコミュニティの子育て部会が凧あげをしたが、最初は二、三十人だと思っていたのが、実際、募集してみたら、110人来たということで、材料などが足りなくて急遽用意してからしたというような状況であった。</p> <p>先ほどの青山との関係もありますけど、お聞きしたいのが、青山の子どもたちは今、通学はどうしているのか。タクシーなどで来ているのか。</p>
教育総務課長	<p>スクールタクシーを利用して通学している。</p>
委員	<p>先ほどの青山のことも関連して申し上げますけど、青山はもうずっと前から下堅田小学校にかなりの人数が来ていた。そういう状況がずっと続いていた。それで最終的に下堅田小と統合してくださいという話になって、それで統合したので非常にスムーズにいったと思う。青山のコミュニティと下堅田のコミュニティは非常に仲がいい。お互いコミュニティの交流もありますし、非常に青山の方は前向きの方が多い。どんどんどんどんいろんなことを提案して、やっていくというそういう気概がある。だから子どもたちのことも関連しますけど、青山小学校の跡地の利用なんかも相当活発にやっている。だから、そういう</p>

地域の人たちの性格もあると思う。ただ、下堅田はどちらかというとなんまりこう出るということがない。非常にどちらかというとおとなしい。下堅田小学校に来た先生方はみんな下堅田はいいなって言って帰る人が多い。穏やかなところ。だから、特別こう提案して何かするということがあんまりなかったが、ただ今度地域コミュニティを立ち上げたら、若い方がコミュニティの委員に入ってきてくれて、この方々が活発に今動いている。どんどんどんどん提案して、どんどん実際にやっていく。今度、先ほど言われました9月20日にありますけど、これなんかもすごい内容になっている。いろんな売の人が来て、バンドを呼んだり、喫茶店をしたりとか、すごい企画だなと思う。これうまくいってこれればいいなと私今、ちょっと冷や冷やししながら思っている。

そういう仲ですから青山と下堅田の保護者の方々もかなり仲がいい。ずっと前からの交流もあり、非常にスムーズに今いっているのではないかなというふうに思う。

私なんか自治会でいろんな話を聞くので、これは学校統廃合だけではないんだけど、いろんな問題で、行政の方たちがいろんなことをやっていくときに、やっぱり地域への説明の仕方の手順とかがちょっと狂うと、なかなか難しいことになる。だから、この統廃合も先ほど私も話を聞いていて、これだけ少子化が進めばこれはもうやむを得ない、やっていかなきゃいかんことだと思っけども、やっぱり話をしていく手順とか、地域の住民感情というのをよく理解してやるとスムーズに進むのではないかなというふうなことを先ほどから聞いていて思っている。

委員

例えば、青山地域の小学校がなくなって、下堅田に統廃合されたことから、青山の地域の方が寂しく思うのではないかなということで、こういう話になったと思うが、西上浦小学校もかなり前に統廃合されてしまい、八幡小に入っている。今、地域振興でしているコミュニティセンター化での地域振興協議会がそれぞれ立ち上がっているが、私の記憶が正しければ、統廃合された後も、その協議会の計画の中で、西上浦の子ども、八幡の子どもも含めて西上浦を探索しよう、その地域の人にガイドされて、いろんなところの史跡とか、珍しいところとか、面白いところとか案内して地域をよく知ろうという活動をしているということを伺った。学校がなくなってもそういうふうに工夫し

	て、そういう協議会の計画の中で、地域の人が子どもとの関わりをずっと持続できるような、そして地域をより知ってもらって、地域に対する愛情を深めてもらうような、そういう活動もできるのではないかと。そういう可能性を今、思っている。
--	---

5 議事

今後の調査及び審議について

事務局が配布資料を基に説明を行い、事務局の提案のとおり決定した。

【質問・意見】

委員	できればこの協議会の資料を事前にもらいたいと思う。そして、事前に質問も受けていただいて、当日の協議会自体にはもう委員の皆さんがどのようなことについて話し合うか事前にわかっていればこの場でもっと活発な意見が出るのではないかと思う。
教育総務課長	資料については、今回は第1回目のため当日の用意とさせていただきます。次回からは、事前にお配りするように考えている。今お聞きした質問を事前に受け付け、当日に話し合うという方法については、こちらの方で検討したいと思う。
委員	スケジュール案で、10月頃に視察研修の検討をして、12月に視察とあるが、これは各市内小・中学校の視察ということか。
教育総務課長	この視察は、他市、他県の状況を視察したいと考えている。義務教育学校にした学校、中学校を先進的に統合した学校、統廃合を見送った学校など、いろいろとあるので、実際に取組をした教育委員会の方から説明を受けることなどを考えている。

6 その他

第2回佐伯市立幼稚園及び小・中学校教育問題検討協議会の日程は、後日決定し、事務局から各委員に連絡することとした。

7 閉会